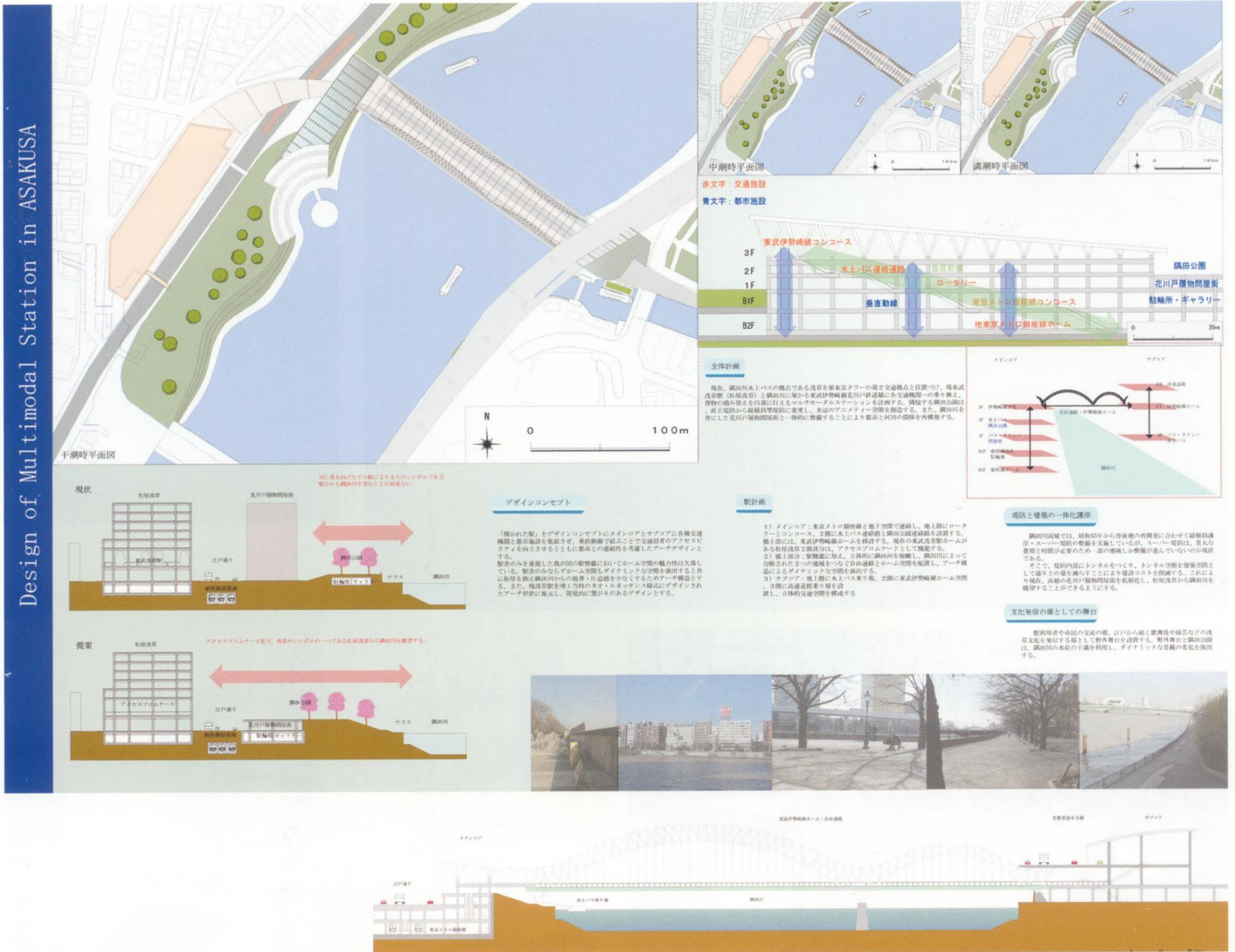




浅草・マルチモーダルステーション構想

小津野勝也 (こづのかつや)

日本大学 理工学部社会交通工学科



平成24年オープン予定の新東京タワー建設は、周辺地域活性化の起爆剤として注目を集めている。周辺地域と新東京タワーとのアクセスの整備は、従来の自動車交通一辺倒の交通体系から多元的な交通ネットワークへの変換を促す大きな好機と考える。そこで、水上バスが就航している隅田川と浅草と新東京タワーを結ぶ十間川を主軸として、鉄道・高速道路・水上交通の総合的な交通拠点計画を提案する。現東武浅草駅（松屋浅草）と隅田川に架かる東武伊勢崎線花川戸鉄道橋に各交通機関への乗り換え、貨物の積み替えを円滑に行えるマルチモーダルステーションを計画する。隣接する隅田公園は、直立堤防から緩傾斜型堤防に変更し、水辺のアニメティー空間を創造する。



【講評】 この作品は、2011年の第2東京タワー開業予定を契機に、浅草駅を中心とした交通体系と隅田川の修景計画をも含んだ実に魅力的な提案だと言える。隅田川の多くの橋は水上からの景観を重視し、船からのランドマーク的役割を担ってきた。しかし、車社会の発達と共に高架道路や高層建築が乱立し、橋のシンボル性は薄れ、街は魅力を失っていった。現在ではライトアップによる夜景でのみ、その存在感を示しているが、作者はその橋を見事に復活させた。浅草駅と第2東京タワーを繋ぐ隅田川の橋上ホーム・自由通路の提案は、車中心で作られてきた都市が失った関係性をも修復させる明確な解答だと言える。更に、浅草寺との繋がりや水上バス・水上舞台など、人の流れを具体的にプロットすればより輝きを増したと思う。

【審査員：石毛 満】